



IEEE MTT-S INTERNATIONAL MICROWAVE SYMPOSIUM

Microwaves Across the Pacific

June 3–8, 2007
Honolulu, Hawaii
www.ims2007.org



General Co-Chairs

Wayne Shiroma
University of Hawaii
shiroma@ieee.org

Michael DeLisio
Wavestream Corporation
delisio@ieee.org

Technical Program

Tatsuo Itoh (Chair)
UCLA
t.itoh@ieee.org

Yuanxun Ethan Wang (Vice Chair)
UCLA
yewang@ieee.org

Olga Boric-Lubecke (Vice Chair)
University of Hawaii
olga@ieee.org

Workshops

Yi-Chi Shih
MMCOMM Inc.
yc.shih@ieee.org

Interactive Forum

Eric Bryerton
Nat'l Radio Astronomy Observatory
bryerton@ieee.org

Panel Sessions

John Cowles
Analog Devices
john.cowles@analog.com

Publications

Debabani Choudhury
Intel Corporation
debabani@ieee.org

Electronic Paper Management

Jon Hacker
Rockwell Scientific Co.
jbhacker@ieee.org

Operations

Wen Phan
Northrop Grumman
wen.phan@ngc.com

Finance

Ed Rezek
Northrop Grumman
e.rezek@ieee.org

Visa Assistance

Zaher Bardai
Raytheon
zb@ieee.org

Local Arrangements

Kevin Miyashiro
Trex Enterprises
kmiyashi@ieee.org

Exhibitor Support

Reynold Kagiwada
Northrop Grumman
r.kagiwada@ieee.org

Pacific Rim Coordinator

Victor Lubecke
University of Hawaii
lubecke@ieee.org

Conference Management

Elsie Cabrera
IEEE Conference Mgmt Services
e.cabrera@ieee.org

Exhibition Management

Harlan Howe
Microwave Journal
hhowe@mwjournal.com

論文募集の案内

The IEEE MTT-S インターナショナルマイクロウェーブシンポジウム 2007 (IMS 2007) が、2007年6月3日(日)から8日(金)まで、2007年度マイクロ波週間の中核として、ハワイのホノルルで開催されます。RF やマイクロ波理論及び技術に研究、開発、及び応用における独自の成果に関する技術論文を募集します。

2007年度マイクロ波週間: IMS 2007 テクニカルセッションは、マイクロ波週間の火曜日から木曜日にかけて行われます。ワークショップは日曜日、月曜日それから金曜日に行われます。マイクロ波週間には、IMS 2007 に加えマイクロ波エキジビション、歴史的な展示、RFIC シンポジウム (www.rfic2007.org)、及び ARFTG 学会 (www.arftg.org) が開催されます。

論文の電子投稿: 本シンポジウムへの技術論文は、IMS2007 ウェブサイト(ims2007.org)を通して行います。論文の投稿方法及び会議への参加申し込みといた重要事項については、IMS2007 ウェブサイトをご覧ください。

セッション等の企画: ワークショップ(入門レベルから上級レベルまで)、特別講演(フォーカスセッションと名誉講演)、パネルセッション、その他のセッションの開催を希望されるからのお申し込みを受け付けております。ワークショップ、特別講演、パネルセッションの議題の提案、組織運営のボランティア、また参加を希望される方は、このページに記載されている担当委員までご連絡ください。

ハワイ諸島は世界的に有名な旅行地であり、ご家族と共にさまざまなアトラクションを満喫なさることが出来ます。ハナウマベイで熱帯魚達とシュノーケル。ワイキキビーチでサーフィンの体験。世界最大級のリゾートで 80 コースもあるゴルフ場でゴルフを楽しむ。ビッグアイランド(ハワイ島)にて灼熱の溶岩流を探検する。カウアイ島では青々と茂った熱帯雨林をハイキング。マウンテンバイクでマウイ島の火山を下る。本シンポジウムのゲストプログラムには、これらを含め、他にもいろいろなハワイの歴史的、文化的なアクティビティが用意されています。旅行情報のホームページは、(www.gohawaii.jp)です。

電子投稿の締め切り

ショートコース、ワークショップ、パネルセッション等に関する企画書:

2006年9月15日

審査原稿:

2006年12月1日

カメラレディ原稿:

2007年3月1日

投稿は全て IMS2007 のポータルサイトから行ってください:

www.ims2007.org

投稿は PDF 形式のみです

ハードコピーは受け付けられません

決められたフォーマットに従うのは著者の責任です。IEEE Xplore の規格に従い、フォントの埋め込みを行ってください

Additional Steering Committee Members: Keith Abe, Derek Ah Yo, Jason Akagi, Justin Akagi, Trevor Bird, Daniel Branch, Joseph Cardenas, Kendall Ching, Bill Deal, Chad Deckman, Lisa DeLisio, Ky-Hien Do, Timothy Fujishige, Darren Goshi, Cynthia Hang, Jerry Hausner, Cheryl Ishii, Reece Iwami, Charlie Jackson, Eric Kaneshiro, Shigeo Kawasaki, Hee Kyung Kim, Michael Kim, Kevin Kobayashi, Hiroshi Kondoh, John Kuno, Kory Kurokawa, Chushiro Kusano, Tom Lambert, Hai-Young Lee, Timothy Lee, Wendy Lee, Kevin Leong, Dorothy Lewis, Jenshan Lin, Louis Liu, Michael Majerus, Ryan Miyamoto, Karen Miyashiro, Shogo Miyoshi, Blaine Murakami, Geok Ng, Yoshio Nikawa, Aaron Oki, Ryan Pang, Jeff Pond, Yongxi Qian, Vesna Radisic, Justin Roque, Dave Rutledge, Jim Schellenberg, Arvind Sharma, Sanghoon Shin, Grant Shiroma, Stacey Shiroma, Chic Shishido, Mansoor Siddiqui, Richard Snyder, Chenyan Song, Noriharu Suematsu, Stephen Sung, Steve Swift, Bela Szendrenyi, Brandon Takase, Eric Taketatsu, Michael Tamamoto, Tyler Tamashiro, Eduardo Tinoco, Wade Tonaki, Karl Varian, Monte Watanabe, Jim Weiler, Larry Whicker, Ke Wu, Dale Yee, Huan Chun Yen

技術論文の投稿

論文投稿の手順: まず、IMS2007 のポータルサイト (www.ims2007.org)より雛形をダウンロードしてください。著者はテンプレートに定められた形式に全て従ってください。論文は PDF 形式のみとし、ファイルサイズが 1MB を超えてはいけません。

2006 年 12 月 1 日の締め切りまでに IMS2007 のポータルサイトで論文を提出してください。期限後の提出は受け付けません。論文と図は必ず 4 ページ以内に収めてください。

採録された論文の著者は、CD-ROM に掲載する論文の最終稿を提出する必要があります。論文採用の通知、および最終稿を電子ファイルで提出するために必要な情報が 2007 年 1 月中に著者に送信されます。

論文審査基準: すべての提出物は英語で記述しなければなりません。論文は、IMS2006 テクニカルプログラム委員会によって、次の審査項目から成る採用基準に従って審査が行われます。

- **オリジナリティ:** 論文の独創性、重要性、進取性
- **定量的内容:** 研究が明確に示され、裏付けるデータが揃っているか
- **明瞭性:** 文章と図のわかりやすさ論文とこれまでの研究との関係、および適切な参考文献
- **MTT-S 会員の興味:** この研究を本会議で報告すべき理由

許可手続き: 論文の要約と最終稿を提出する前に、作成者が責任を持って、企業および政府から必要なすべての許可をとる必要があります。採録された各論文の最終稿の提出の際、このような許可を受けたことを示す提出者の署名、および IEEE コピーライトフォームを提出していただきます。詳細は、IMS2007 の論文の電子投稿ページ (www.ims2007.org)にあります。

技術分野: 著者が選んだ技術分野(次のページを参照)を基に、担当の審査小委員会が決定されます。著者登録用紙で第一分野と第二分野を選択してください。論文の要約には、選択した分野が明確に反映された内容が含まれていなければなりません。内容が選択した分野に合致しないと判断された場合は、IMS2007 技術プログラム委員会によって、より適した分野の審査小委員会に移されます。

発表形式: IMS は次の 3 つの形式によるプレゼンテーションを行います:

- **フルペーパー** マイクロ波技術の注目に値する研究、進歩、応用を正式なプレゼンテーション形式で報告し、ある程度の聴講者との意見交換の場を持ちます
- **ショートペーパー** 最新研究での特定の改良点について、正式なプレゼンテーション形式で報告を行い、ある程度の聴講者との意見交換の場を持ちます。
- **意見交換フォーラム** 著者は理論上または実験による結果の詳細をポスター発表したり、ハードウェアを展示してデモを行ったり、関心のある研究者と一対一の議論を行うことができます。

著者が選んだ形式が可能な限り尊重されますが、論文はテクニカルプログラムの制約内で最もふさわしい分野とプレゼンテーション形式での発表となります。すべての講演者は講演の際に電子プロジェクターを使用することをお勧めします。35mm のスライドプロジェクターや OHP は使用できません。

学生論文コンテスト: 本シンポジウムの一環として、学生論文コンテストが開催されます。学生論文は他の学会論文と同一の方法で審査が行われます。コンテスト参加が認められた論文は、最終審査で論文内容とプレゼンテーションが評価され、1 位、2 位、3 位まで賞が授与されます。コンテスト参加資格として、学生は論文作成時にフルタイムの学生(大学院生は 1 学期中 9 時間以上、学部生は 1 学期中 12 時間以上)でなければいけません。また、その学生が論文の筆頭著者となって、シンポジウムにおいて論文の発表を行う必要があります。著者は 3 人までとし、学生は筆頭著者のみでなければなりません。学生は、論文提出時に指導教官の電子メールアドレスを明記する必要があります。研究内容が主にその学生によるものであることを認める趣旨の覚書が自動的に指導教官に送信されます。

採択通知: 著者には 2007 年 1 月中に審査結果が通知されます。採録された論文の著者には、電子メールによる採用通知書が送信されます。採用通知書にはカメラレディ原稿を提出するにあたっての詳しい説明や記入しなければならないフォームに関する説明があります。CD-ROM に論文を掲載、及び学会発表するためには、最終締め切り(2007 年 3 月 1 日)までに最終稿を提出する必要があります。

技術分野

- 1. 電磁界解析と導波**
最新の導波構造、伝送線路などの導波管構造における新しい道理現象、導波の問題を解決する新たな解析方法
- 2. 周波数領域法**
デバイスや回路の電磁界相互作用等、電磁波の問題を数値的に解決する周波数領域法
- 3. 時間領域法**
高周波回路における電磁波の問題を数値的に解決する時間領域法
- 4. CAD のアルゴリズムと解法**
回路解析技法、最適化解法、統計的解法
- 5. 線形デバイスモデリング**
能動/受動デバイスの線形モデル、不連続構造のモデル
- 6. 非線形デバイスモデリング**
大信号デバイスモデル、特性解析、パラメータ抽出、検証
- 7. 非線形回路解析とシステムシミュレーション**
ハーモニックバランス、シミュレーション技法などの非線形回路解析、歪みとスプリアスの解析、システムシミュレーション、動作モデリング
- 8. 伝送線路素子**
平面、非平面、およびマイクロマシンによって作られた導波構造における不連続、接合、トランジション(マイクロストリップ、ストリップ線路、スロット線路、コプレーナ、誘電体導波路を含む)
- 9. 受動回路素子**
回路設計へのカップラ、分割器/結合器、ハイブリッド、共振器、集中素子を使った回路設計
- 10. 平面受動フィルタとマルチプレクサ**
平面フィルタとマルチプレクサ(平面超伝導構造を含む)の斬新なシンセシスや解析法
- 11. 非平面受動フィルタとマルチプレクサ**
導波管、誘電体共振器及び非平面超伝導構造
- 12. 能動及び集積フィルタ**
Si, LTCC, LCP, MCM-D, GaAs 等の集積フィルタ、能動、可変フィルタ、または EBG や DGS といったメタマテリアルを利用したフィルタ
- 13. 強誘電体、フェライト及び弾性波を用いたコンポーネント**
強誘電体デバイス、立体及び薄フィルムフェライトコンポーネント、FBAR などの立体及び表面弾性波デバイス
- 14. MEMS の素子と技術**
RF 超小型電子/超微細加工素子およびサブシステム、MEMS 技術を利用したスイッチ、共振器、可変受動フィルタ、移相器、可変フィルタ、アンテナ。モデリング、パッケージング、信頼性、新しい材料、またはアセンブリ工程
- 15. 半導体素子および、モノリシック IC 技術**
多機能で高度の統合されたモノリシック素子、RF、マイクロ波、ミリメートル波 MMIC、MMIC の構造、信頼性、故障分析、生産量とコスト
- 16. 信号発生**
CW およびパルス発振器 VCO、DRO、PLO 周波数シンセサイザ。新型デバイス及び共振器の応用、発振器雑音、DDS 技術
- 17. 周波数の変換と制御**
電子スイッチ、移相器、リミッタ、ミキサ、周波数逡倍器
- 18. HF、VHF、UHF 技術 RF**
HF、VHF、UHF の技術(能動/受動素子、集中素子、分布素子、送信器及び受信器)
- 19. 電力増幅器デバイスと集積回路**
RF、マイクロ波およびミリ波信号用、またはワイドバンドギャップデバイスをを用いたのディスクリットまたは IC 電力増幅器の設計と性能
- 20. 大電力増幅器**
大電力増幅器の設計と特性、リニアライザ技術、電力結合技術、真空管機器
- 21. 低雑音コンポーネントと受信器**
低雑音増幅器、検出器、デバイス、受信器、ラジオメータ、低雑音回路とコンポーネントのモデルと特性化の技法
- 22. ミリ及びテラヘルツ用のコンポーネント及び技術**
30 GHz 以上でのミリ波用コンポーネント、技術及び応用、サブミリ波/テラヘルツデバイスやテラヘルツイメージングといった応用。
- 23. マイクロ波フォトニクス**
マイクロ波と光学の相互作用とデバイス技術。ファイバー利用無線、自由空間光学技術、光学のケーブルブロードバンドへの応用、光学伝送の効果と障害
- 24. GHz 速度でのデジタル回路及びシステム**
ADC、DAC、DDS やソフトウェア無線、インターコネクタやバックプレーン、シグナルインテグリティやイコライゼーション、電気/光学インターフェイスや伝送線路を含む高速混合信号コンポーネント、モジュール及びサブシステム
- 25. パッケージングインターコネクタ、MCM、製造**
誘電体基板、コンポーネントとサブシステムのパッケージング、組み立て方法、ハイブリッド集積、インターコネクタおよびマルチチップモジュール(MCM)製造工程、生産高とコスト
- 26. 計装および測定技法**
ネットワーク時間領域測定、スペクトル測定、フィールドマッピング、誤り訂正と推定、材料測定
- 27. 生物学と医学への応用**
マイクロ波の生体医用への応用、生物学、マイクロ波電磁界や組織内相互作用への応用
- 28. スマートアンテナと空間電力結合及びフェーズドアレイ**
スマートアンテナの無線への応用、空間電力結合、フェーズドアレイ、レトロディレクティブシステム、T/R モジュール、マルチビームスキャン、アクティブアンテナ
- 29. レーダーとブロードバンド通信システム**
地上/車上/屋内/衛星通信用のブロードバンド及びミリ波システム、レーダーシステムとサブシステム、UWB システムとサブシステム
- 30. ワイヤレスおよびセルラー通信**
セルラーシステム、送受信器構造、無線 LAN/WAN、802.11x、ソフトウェア無線、Bluetooth、UWB、ZigBee、CDMA、GSM、GPRS 及び EDGE
- 31. センサーとセンサーシステム**
RFID、IVHS、ワイヤレス小型センサ、非破壊試験、イメージング、リモートセンシング



IEEE MTT-S INTERNATIONAL MICROWAVE SYMPOSIUM

Microwaves Across the Pacific

June 3–8, 2007
Honolulu, Hawaii
www.ims2007.org



電子投稿の締め切り

ショートコース、ワークショップ、パネルセッション等に関する企画書:

2006年9月15日

審査原稿:

2006年12月1日

カメラレディ原稿:

2007年3月1日

投稿は全て IMS2007 のポータルサイトから行ってください:

www.ims2007.org

投稿は PDF 形式のみです

ハードコピーは受け付けられません

決められたフォーマットに従うのは著者の責任です。IEEE Xplore の規格に従い、フォントの埋め込みを行ってください

www.ims2007.org で IMS 2007 ホームページをご覧ください

IEEE
468 Walden Trail
Waxhaw, NC 28173
USA

Non-Profit
US Postage PAID
Permit No. 1715
Pittsburg, PA

IEEE MTT-S International Microwave Symposium 2007 論文募集の案内